

谷川岳登山道整備2025

活動報告

・

参加者アンケート結果

谷川岳エコツアーリズム推進協議会

■ 実施概要

- 実 施 日 : <事前学習> 2025年9月1日(月) 19:00-20:00
<整備本番> 2025年9月8日(月)・10月27日(月)
- 主 催 : 群馬県自然環境課 | 谷川岳エコツーリズム推進協議会
- 協 力 : 環境省谷川管理官事務所 | みなかみ町観光商工課 | 株式会社 山屋
- 実 施 場 所 : 登山口(天神平)から熊穴沢避難小屋までの区間
- 実 施 概 要 : ① 段差が大きくなり歩きにくくなった箇所、新たにステップを構築する
② 土砂が詰まり機能不全に陥っている側溝を掘り出す
③ 側溝から掘り出した土砂や、付近にある大きな石などをステップ構築班に歩荷する
- 募 集 方 法 : ・ 谷川岳周辺山域において、普段から安全登山の啓発・管理に携わっている関係各所に直接連絡をして参加者を募った
⇒ 谷川岳警備隊 | 谷川岳登山指導センター | みなかみ山岳遭難対策協議会 |
みなかみ山岳ガイド協会 | 谷川岳エコツーリズム・インタープリター
・ YAMAP公式アカウントにて一般参加者を若干名募集した
⇒ 2日間で〆切
- 参 加 者 : 【1回目】計25名 ⇒ (関係団体) 12名 (一般) 4名 (関係者) 9名
【2回目】計40名 ⇒ (関係団体) 24名 (一般) 7名 (関係者) 9名



■ 実施報告- 活動成果のまとめ

▷ ステップ構築：

1 回目	2 回目
・ No. 1 ～ No. 14までの区間において計 6 カ所ステップを構築/修繕	・ No.12～No.22までの区間において計 6 カ所ステップを構築/修繕

▷ 側溝掘り：

1 回目	2 回目
・ No. 14、No.17の計 2 か所の側溝の機能を回復した	・ No.14上部の木道下に水の通り道を構築 ・ No.19-20の間の側溝の機能を回復した

▷ 資材の歩荷：

1 回目	2 回目
・ 熊穴沢避難小屋近辺にあった浮石をステップ構築の資材に使用した ・ 側溝を掘って出た土砂や石をステップ構築の資材に使用した	・ 登山口上部からNo.12までの箇所で大きな浮石をステップ構築資材に使用 ・ 沢や登山道横の道にあった倒木や石、落ち葉をステップ構築の資材に使用



■ 実施報告・1回目 | ステップ構築（1班⇒ステップ構築＋5班⇒上部から大きな石を歩荷）

📍 No.3



1段目の足場が無くなったことにより
足場が安定せず歩きにくかった階段



1番下に1段ステップを構築した

▷使用資材：角材 | L字アングル | 番線 | 石 | 土

📍 No.5



土の流出により段差が非常に大きくなった階段。
登りの際、足を上げるのに苦労するため、木道の
左側にあるスペースに足を置く登山者が急増。
踏圧により、周囲の植生にも悪影響が生じている。



大きな段差解消のため、2段ステップを構築した

▷使用資材：角材 | L字アングル | 番線 | 石 | 土

📍 No.8



木製階段の踏み板が1枚外れているため、段差が非常に大きくなった階段。
下山時はここが登りになるため、登山者は足を上げたくない心理が働き、階段左側を歩くため踏圧で崩れ始めている。



階段の下には黒いプラスチックの蛇籠があり、この紐が靴に引っかかり非常に危険。



階段の下に安全かつ高さが苦にならないステップを構築している様子。
この1段があることで、木製階段の外を歩くことなく、安全に通行できるようになる。



無意識に木製階段の通行を選択できるように設計

▷使用資材：角材 | L字アングル | 番線 | 石 | 土

■ 実施報告・1回目 | ステップ構築（2班⇒ステップ構築＋5班⇒大きな石を歩荷）

📍 No.9



土の流出が激しく、段差が非常に大きくなった階段。登りの際、足を上げるのが苦なので登山者は階段両脇を通行。踏圧により植生が衰退。



登山者が苦にならない高さの段差（15cm程）のステップを5段構築した。
また紐が引っかって危険だった蛇籠をステップ下に埋めることで危険性を解消した。

📍 No.15



階段下にあった土が流出し、空洞になったことで足の置き場が階段の踏み板のみとなった状態。不安定であり、上り下りに不安が生じる。



土が流出した部分に、側溝から掘り出した土砂を敷き詰めることで、より広い足場を確保できる状態にした。

■ 実施報告・1回目 | ステップ構築（2班⇒ステップ構築＋5班⇒大きな石を歩荷）

📍 No.14



矢印部分の段差が大きく、丸部分に1歩目を置きたいが、すぐ上の踏み板が重なっているため足が置けない。
登りも下りも足の置き場に困る階段だった。



重なっていた踏み板を切断！その下にあった土をならすと歩きやすいステップが1段できた。



1段目のステップ手前も崩れていたり、段差が大きくなっていたため、新たにステップを構築。
▷使用資材：角材 | 木の杭 | 石 | 土



- ① 踏み板を切断し、下の部分を整地
- ② 段差解消のためステップを構築
- ③ 切断した木片を、新たなステップに再利用

📍 No.14



土砂が詰まり機能していない側溝。
水がこの中を流れないため、登山道上を流れて
しまう状態。放置すると洗掘が進む上、足場が
濡れて危ない。



側溝内の土砂を掘り出し、水が谷側へ流れる
ように水の流れ道を再生した。
掘り出した土砂はステップ構築班へ歩荷した。

📍 No.17



土砂が詰まり機能していない側溝。
水がこの中を流れないため、登山道上を流れて
しまう状態。特にこの側溝の直下には岩があり
濡れると滑って危険が増す。



側溝内の土砂を掘り出し、水が谷側へ流れる
ように水の流れ道を再生した。
掘り出した土砂はステップ構築班へ歩荷した。

■ 実施報告・1回目 | 活動の様子



📍 No. 13



手前と奥の木道の間にあったはずの土壌が流され
20cm以上の段差ができてしまった箇所。
段差を嫌がる登山者が木道横を歩くため裸地化が進む。



手前の木道→奥の木道へ進めるよう、段差を解消
※木道横の笹が数年後どう変化するかモニタリング
が必要
▷使用資材：角材 | 石 | 土 | 落ち葉

📍 No.14



木道直下の道にあった蛇籠（黒い籠の中に石が
詰められていた）の外枠が徐々に切れ、石が流
出したことにより、年々段差が大きくなってし
まった箇所。



1番下に1段ステップを構築した

▷使用資材：落ちていた木 | 番線 | 石 | 土 | 落ち葉

📍 No.16



土壌が流出し、木道との段差が30cm近くあり段差を嫌がる登山者が木道横の道を通るため裸地化が懸念されていた箇所。



1番下に1段ステップを構築し、木道横の道を選ばないよう、倒木を置いた。

▷使用資材：角材 | L字アングル | 番線 | 石 | 土 | 落ち葉

📍 No. 18



木の根がステップの役割となっている箇所。木の根は滑るので危険性が高いことに加え、土壌の流出を食い止める必要があった箇所。



1番下の木の根の上に1段ステップを構築した

▷使用資材：角材 | L字アングル | 番線 | 石 | 土

📍 No. 19



水が流れて土壌が流出し、木道までの段差が大きくなった箇所。
木道の左側を登山者が歩くことで、更に洗掘が進み、水が流れることで土壌流出が加速している箇所。



1番下から2段ステップを構築し、木道との段差を解消した。

▷使用資材：角材 | L字アングル | 番線 | 石 | 土 | 落ち葉

▼ 1班のステップ構築の様子：



まずは場所をよく観察する。
その上で、その場に適した施工方法を考え、構築するステップの位置、段数等を決め、木材／石で土台をつくる、



石で土台が固まったら、ステップ内に枝・石・落ち葉等を埋める。
ある程度埋めてから土を入れると、セメントのようにステップが締まっていく。



敷き詰めた枝や石の間に、落ち葉やセメントの役割を果たす土が入るように踏み固める。その後登山者が通ることですさらに強固になる。

📌 No.21



天神尾根線で最も土壌の流出／えぐれが大きかった箇所。

石の入った黒いプラスチックの蛇籠は経年劣化が進み、石が流出し、プラスチックの網だけが残し、登山者の足に絡むため非常に危険。

蛇籠が機能しなくなったこともあり、長きにわたり土が流され、登山者が歩くことで更にえぐれていった。

1段目の段差は、最早登れる段差の高さではなく、登山者は向かって左側を通行するため、更に土壌の流出が進行するという悪循環だった、

手前の蛇籠の箇所から含めて、全部で8つのステップを構築した。

▷使用資材：角材 | L字アングル | 番線 | 倒木 | 石 | 土 | 落ち葉



📍 No.14の上部



木道が屈折している箇所には沢がある。沢の水の通り道がないため、沢を流れて来る水がすべて木道の上を流れ、木道が非常に滑りやすくなっていた。濡れた木道を歩くのを嫌がる登山者の多くが、木道右下の道を通行するため、踏圧で土壌も脆くなったり、踏み跡に水が滞留する等、いつ怪我が起きてもおかしくない箇所だった。



まず、木道下に水が通れる穴を掘った（下図参照）。

次に、木道下から流れ出て来る沢の水が、木道右下の谷に流れ出る際に、土壌を流出させる可能性が高かったため、水の通り道を塞がないように工夫しながら石を置き、土壌の流出を防いだ。

▷使用資材：倒木 | 石

▼水の通り道復活の様子：



木道下は土で埋まっているため上部の沢から流れてきた水は通る道がなく、木道上を流れるしかない。



木道下に穴をあけ、水の通り道をつくった。開通した瞬間から水が勢よく流れ出て、木道上に水が流出しなくなったことを確認した。



木道下を通して流れ出て来た水が谷へ流れ出る際の通り道は、倒木と石で構築した。

📍 No.20付近



側溝内に土や石が詰まり、水の通り道がふさがってしまった箇所。



側溝内の土砂を掘り出し、水の通り道を復活させた。
掘り出した土砂は、ステップ構築の資材に活用した。

▼木道上の栈木打ちの様子



かつて付いていた栈木（木道上に打ち付けられた滑り止めの役割を果たす木）が、経年／降雪等の影響により無くなってしまい、滑りやすい箇所。

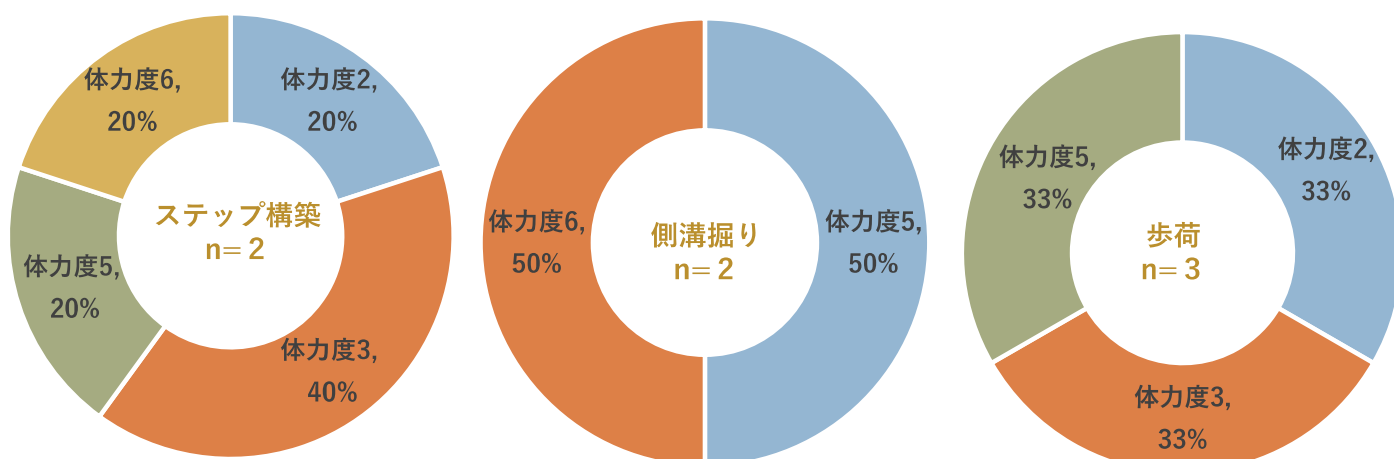


元々栈木が打ち付けられていた箇所に合わせることを条件に、新たに栈木打ちを行った。
今回の活動中に全部で100本栈木打ちを行った。
▷栈木：横30cm×縦3cm×厚さ1.5cm



■ 参加者アンケート結果 | 2回目の活動について

【1】活動内容 – 主に担当した活動の体力負荷について



【2】活動内容 – 特に大変だった内容

* 自由記述

■側溝掘り：

新規ステップの1段毎の高さ、組み方、踏板部の面積等、
皆の意見を擦り合わせることが難しくもあり、修繕のやりがいや楽しさであると感じた。

バランスの悪い角材を安定させて運ぶのが難しかったです

■側溝掘り：

側溝堀の際、オリジナルの深さが不明の為、どの程度まで掘るのか？
土質の変化で判断した。

栈木打ちの釘不足、抜いた曲がった釘を真っ直ぐに延ばして再利用した。
時間がかかった。

■歩荷：

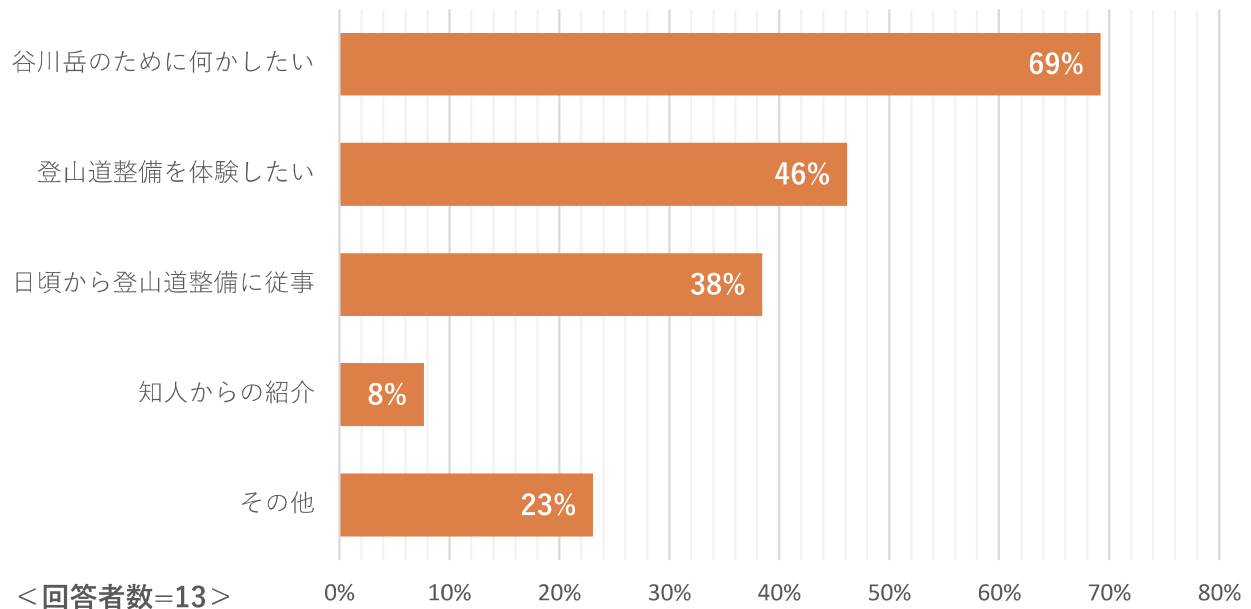
ドロドロが不快に感じたくらいですが、
これも整備の内ですから特に大変な事はありませんでした。

歩荷班は今回楽でした。

■ 参加者アンケート結果 | 参加のきっかけ・充実度

【3】 谷川岳登山道整備に参加しようと思ったきっかけ

* 複数選択可

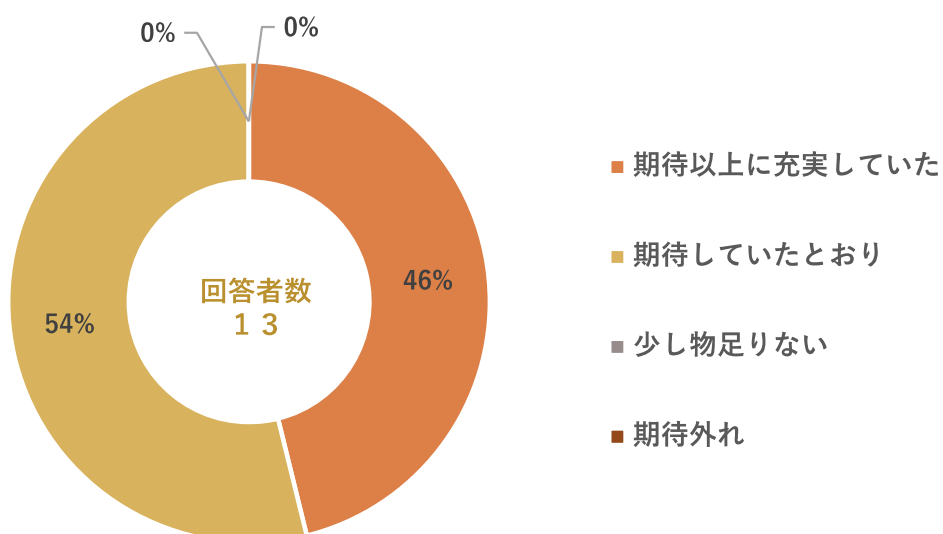


登山道整備についての見識を広めたかった

国立公園であり、登山者も多い谷川岳メイン登山道のリアルを知りたかった

今後に向け、どの様に修繕活動していくのかを体感したかった

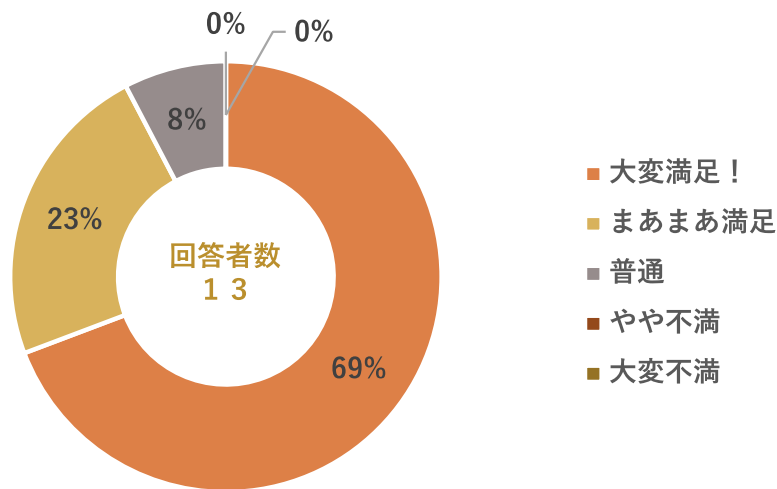
【4】 活動内容について思うこと



・ 回答者全員が「期待以上に充実していた」「期待していたとおり充実していた」と回答し、「物足りない」「期待外れ」と回答した人はいなかった

■ 参加者アンケート結果 | 満足度

【5】活動全体に対する満足度



登山道整備にて少しでも、山に恩返し出来たこと。
そして、このような機会を作って頂いたスタッフの皆様に感謝いたします。

達成感！

自分もイメージしていた登山道整備の基本的な考え方に共感できた。
自然の地形や気象の影響を考えたうえでの自然工法的な方法がいろいろと学ぶことができた。

段取りが適正でした。
(集合、班分け、作業内容説明、作業中の休憩)、作業者が皆さん協力的で気持ち良く作業出来ました。
最後の終了、解散まで主催の方々がかまきりしていた。
(この手の活動では、いつ集合、解散、休みいつ？とか、ダラダラしていて参加者が指示を待っているのによって事がままたまあります。また、指示者ではないのにやたら仕切る方がいると参加者がやりにくい雰囲気になり、もう次回は結構となります)

登山道整備のイベントに関わらせていただけて、とてもいい経験をさせて貰えたと思っているので、この満足度になっています。

通るたびに「ああ～・・・」と思っていたところが、一日で見違えるようになったので
また、班のみなさんが本業や趣味のスキルを活かしつつ、活躍されているのを見て嬉しかったので

ステップの作り方をその施工方法にする理由とセットで教えて頂いたのと、
作業の流れを何回も経験することができたので。

良い思い出になりそう

よくわかった！

色々と勉強になることがあった

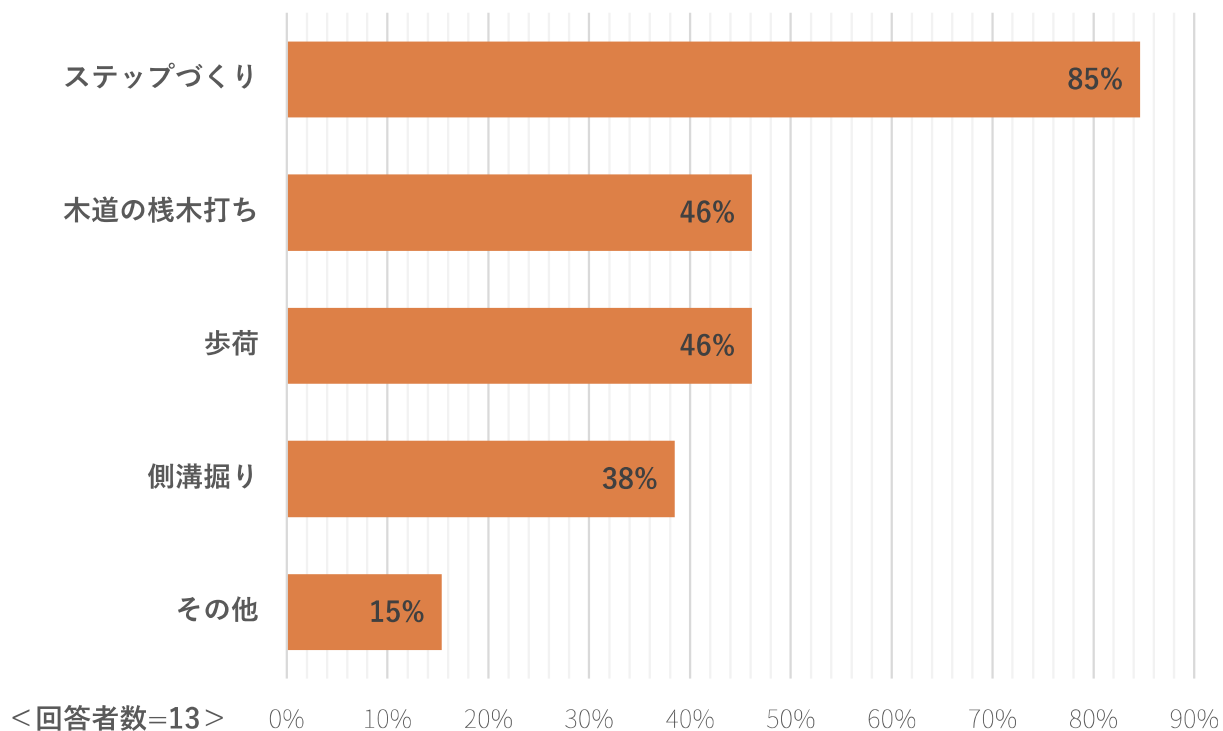
大満足に足りなかったのは、もっと多くの修繕材料を歩荷出来たと感じだから。
頑張りすぎではいけないと思いますが、大変良い経験が出来ました。

作業を通して、登山道の現状や修繕方法において非常に勉強になった。
個人的には、もっと丁寧に考え作業すれば、今後、自然の作用を受けながら機能するステップを作ることは可能であったと思う。今回は時間の制約もあり難しかった。
ステップが作れたことに満足してはいけないと思いましたので、「普通」としました。

■ 参加者アンケート結果 | 今後に向けて

【6】今後、体験／実施してみたい活動

* 複数選択可



登山道に於いて、水溜りが出来やすいエリア(泥濘状)の補修手段

修繕に必要な土を予め集めておくための土溜まりの設置、土嚢に土を採集する

■ 参加者アンケート結果 | ご意見

【7】活動全体をとおして気づいたこと・ご意見

資材

道具、資材が足りないことによる作業の遅延や待ち時間が発生した。
ある程度、資材は多く準備して欲しいと思いました。

釘、栈木が足りなかった

カゴが付いていないと石や土嚢を運ぶのは難しく、
自前の背負子を持ってきましたが、使いませんでした。
背負子を持ってもカゴが無いと現場で使えない案内するか、カゴと結束ベルトなどを用意して
頂けると助かります。



栈木打ちは急遽実施することとなった関係で、釘の用意が足りなかった。
釘などの消耗品は今後もいつか必ず使う機会があるので、多めに用意したい。

施工方法

湿地や湿原、泥濘になってしまったところを登山道整備をするのは、
木道などを敷く大規模な工事になってしまうのかな。
先日イベントで、たくさんのランナーが走った足跡がたくさん残っているひどい泥濘の登山道が
ありました。
登山経験上、一度深い泥濘を作ってしまうと元に戻りません。
泥濘をそれ以上防ぐための工事や改善できる工事というものもあるのかな。

石を移動しての利用や古損木の利用がされたかと思われるが、今回の整備箇所は自然公園法の特別
保護地区に該当しないのか？ 該当しているなら問題はないのか？



水たまりになる箇所への対応／水の通里道の作り方等、施工事例を交えて学ぶ機会を設けたい。
本活動が実施できた法令根拠や必要な準備等については、事前学習で都度お伝えする必要がある。

思い

教えて頂いた内容をまとめて自分たちで定期的にやりたい

いつも水たまりになるところを解消させたいです！



定期的な活動につなげられるよう、体制づくりを進めることが今後の挑戦のひとつ。

【7】活動全体をとおして気づいたこと・ご意見

正直、今回は歩荷班の人数が作業内容に対して多かった気がするので、今後人数の振り分けに関しては改善の余地があるような気がしました。それと、以前登山道の整備をした部分に関しての説明に関して、登山道という環境なので仕方ないのですが、**説明がうまく聞こえなかったり、説明している部分が見えなかったりする部分があったので、**事前に動画で長谷川さんとか土屋さんが説明している様子を撮って皆さんに共有しておいてもいいのかなと思いました。そうすれば、みなさん自分たちで「ああこの部分があの話してたやつか〜」とか聞こえなくても以前の施工箇所を見に行った時にもう少し楽しめるのかなと思いました。

今年度4回の登山道整備の実施、大変お疲れ様でした。町外の参加者の方から「**登山道整備関係者の意思疎通が良くできているように見えた。**関係者が違う方向を向いてしまっている地域もある。」と伺いました。県・町の担当の方の尽力のおかげだと思います。人数が多くてちょっと手が余ってしまった時間もありましたが、多くの方に体験していただける貴重な機会になったと思います。

運営
資金の問題や管轄行政の違いなど、ハードルは高いと思いますが、**整備を継続的に実施していけるよう、ボランティアではなく参加者に報酬が支払われる事業へ変わっていくと良い**と思います。

地形図を利用+水の流れを観察し、土が集まる、採集場所として土留めを設置する。試験的にやってみても良いのかな？と思いました。それを地図読み×登山道修繕のワークショップにしてほしい。木道部分に古い栈木をとめていたであろう釘が、かなりの数、そのまま残されているのは危ないのでは？今回の作業前の状態しか見ていないので、取り除いていただけたなら感謝です。ヤシ袋はビニール素材の袋より、通気性や経年劣化を考えた時に自然に優しく、段差解消のために使うのならそちらの方が良いのではないかと？と思いました。

谷川岳ファンは沢山いると思います！ファンを巻き込んで（正しく自然を見られる指導役はもちろん必要です）、面白くないと思われる作業でも、皆で山の話をしてながら保全活動ができたら良いと思います。**関わればもっと好きになる。**植生回復等、結果が出ればヤル気倍増！お手伝いし続けます。皆で谷川エリアをまもって行きましょう。



2025/9/8：谷川岳登山道整備 1回目終了後の集合写真



2025/10/27：谷川岳登山道整備 2回目終了後の集合写真

いっぽずつ、すこしずつ🌱